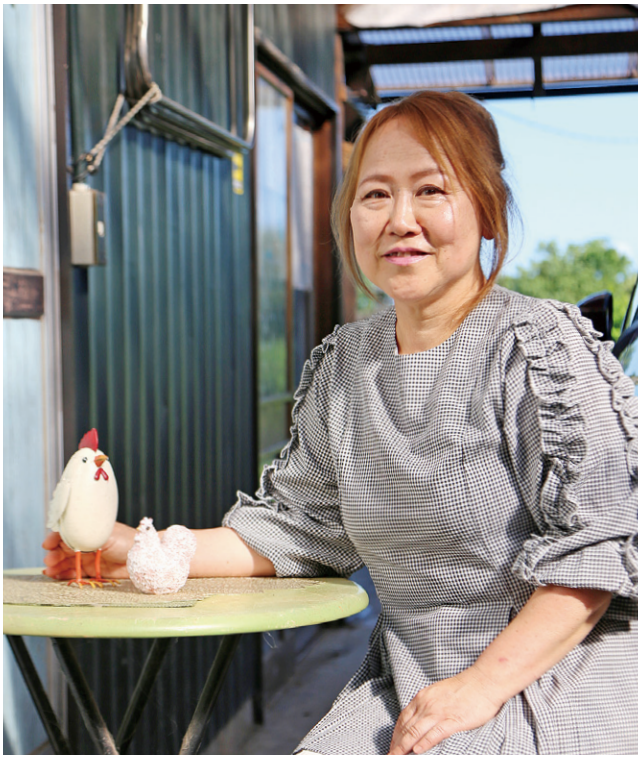
市が魅力を、価値を、エネルギーを「私に」伝える情報紙
To Me 広報とめ トゥー・ミー
8 Aug 2025 Vol.363

ときめき人
Tokimeki bito



心に響く歌の魅力を登米の地から

迫町・新田駅前
千葉 静子さん
ちば　しずこ
1965年生まれ

Profile

洗足学園音楽大卒。オペラのほか、ミュージカルや新劇の舞台にも出演するなど、幅広いジャンルで経験を積んできた。自身の体を「楽器」と捉え、体に良いものを追求していく中で、ハーブや薬草に関する資格も取得している。

60歳の誕生日に合わせ、4月に開催したリサイタルは満席に。7月21日(月・祝)には水の里ホール・Abebisou大ホールで公演するなど、精力的に活動中。

「自分にできるのは歌うことだけ。でもそれが誰かの世界を広げるきっかけになれば、とてもうれしい」と千葉さんは笑顔を浮かべる。

日本で最も歴史のあるオペラ団体「藤原歌劇団」に在籍し、20代からソプラノ歌手として国内外の舞台で活躍してきた。30代の時、関東から父の故郷である迫町へ活動拠点を移したことを機に、水の里ホール・Abebisou(登米祝祭劇場)で開催された創作舞台「夢フェスタ水の里」の立ち上げに深く関わった。声楽家として活動する一方、指導者として多くの合唱団の活動に携わり、今もなお地域の音楽活動を支え続けている。

60歳という節目の年を迎えて、「教える立場のはずが、逆に教わることも多かった」と、これまでを振り返る。指導する合唱団には、毎月の練習を心待ちにする90代の団員もおり、「100歳まで続けたい」と話すその笑顔に、千葉さん自身も励まされ、パワーをもらっている。また、「オペラに憧れていたが、やれる場所がなかった」と話す若者が、合唱団に参加してのびのびと歌を楽しむ姿を見て、大きなやりがいと希望を感じたという。

「歌は誰でもチャレンジできるものだけど、直接触れる機会や学べる環境はまだ少ない。自分にできる範囲で、歌の魅力を伝えていけたら」と意気込みを語る。今後は、子どもたちを対象に、生の音楽を届けるアウトリーチ活動にも取り組んでいく予定。登米の地から響く歌声は、世代や地域を越えて、多くの人の心に届いていく。

編集後記

▼中総体で感動。笑顔でガッツポーズする姿、背中をさすり励ましあう姿、手を握り締めて応援する姿。これまでの取り組み一つ一つが結果につながることを祈りながら取材しました。中学3年の息子がいる私は、どの競技も親の気持ちになり涙々でした。(森田)

▼ときめき人の千葉さんを取材中、テーブルの上にあったニワトリの置物に目を留めると、「イタリアではニワトリが歌い手のお守りとして親しまれているんです」と教えてくださいました。気になるその理由は…目覚めたばかりでも、遠くまで響くいい声で鳴けるから。なるほど!(添田)

▼先日、福島県いわき市の広報担当者と情報交換する機会がありました。編集方法や悩みなどを共有。共感することも多く、勉強になって、すごく前向きな気持ちになりました。やっぱり共感って大切。「市民の皆さんに共感してもらえる広報紙を作るぞ」と、心の中で誓いました。(高橋)

広報とめ(8月号)
発行日/令和7年7月16日　発行/登米市
〒987-0511 宮城県登米市迫町佐沼字中江二丁目6番地1
編集/総務部市長公室 広報広聴係
TEL.0220-22-2090 FAX.0220-22-9164
E-mail:koho@city.tome.miyagi.jp　印刷/川内印刷株式会社

登米市公式ホームページ
https://www.city.tome.miyagi.jp/
登米市メール配信サービス
(防犯や防災、市政に関する情報などを配信)
https://plus.sugumail.com/usr/tome/home
登米市公式 LINE
(市政、イベント情報などを配信)
https://line.me/R/ti/p/%40972tqqam